

例題9 関数の導関数(1)

つぎの関数の導関数を求めよ.

- (1) $y = \sqrt[3]{(x^2+1)^2}$ (2) $y = \cos(\sin x)$
 (3) $y = e^{x^x}$ ($x > 0$) (4) $y = \cos^{-1} \frac{x^2-1}{x^2+1}$

Maple Ex

解答 (1) $y = \sqrt[3]{(x^2+1)^2} = (x^2+1)^{2/3}$

$$y' = \frac{2}{3}(x^2+1)^{-1/3} \cdot 2x = \frac{4x}{3\sqrt[3]{x^2+1}}$$

(2) $u = \sin x$ とおくと, $y = \cos u$. p.16 の定理 16 (合成関数の導関数) より

$$\frac{dy}{dx} = \frac{dy}{du} \cdot \frac{du}{dx} = -\sin u \cdot \cos x = -\sin(\sin x) \cdot \cos x$$

(3) $y = e^{x^x}$ ($x > 0$) は $y = e^{(x^x)}$ という意味である. この両辺の対数をとると $\log y = x^x$. この両辺を x で微分すると $y'/y = (x^x)'$ となる.

$u = x^x$ とおき, u' を求める. そのためこの両辺の対数をとると $\log u = x \log x$. この両辺を x で微分すると $u'/u = \log x + 1$. よって $u' = x^x(\log x + 1)$.

$$\therefore y' = e^{x^x} \cdot x^x(\log x + 1)$$

(4) $y' = -\frac{1}{\sqrt{1 - \left(\frac{x^2-1}{x^2+1}\right)^2}} \frac{d}{dx} \left(\frac{x^2-1}{x^2+1}\right)$

$$= -\frac{x^2+1}{2x} \frac{2x(x^2+1) - 2x(x^2-1)}{(x^2+1)^2} = -\frac{2}{x^2+1} \quad (x > 0)$$

問題

9.1 つぎの関数の導関数を求めよ.

(1) e^{x^2} (2) $x^2 \sqrt{\frac{1-x^2}{1+x^2}}$ ($-1 < x < 1, x \neq 0$)

(3) $\sqrt{x^2+1} \sqrt[3]{x^3+1}$ (4) $\frac{x}{\sqrt{x^2+1}}$ (5) $\frac{x}{x - \sqrt{x^2+a^2}}$ ($a > 0$)

(6) $(\tan x)^{\sin x}$ ($0 < x < \pi/2$) (7) $\log(x + \sqrt{x^2+1})$

9.2 つぎの関数の導関数を求めよ.

(1) $y = \tan^{-1} \left(\frac{1}{\sqrt{2}} \tan \frac{x}{2}\right)$ (2) $y = \cos^{-1} \frac{4+5\cos x}{5+4\cos x}$

(3) $y = \sin^{-1} \sqrt{1-x^2}$

例題10 関数の導関数(2)

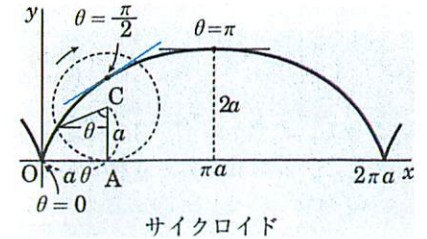
サイクロイド $\begin{cases} x = a(\theta - \sin \theta) \\ y = a(1 - \cos \theta) \end{cases}$ 上の $\theta = \frac{\pi}{2}$ における接線の方程式を求めよ. ただし $a > 0$ とする.

解答 p.17 の定理 18 (媒介変数を用いて表される関数の導関数) を用いる.

$$\frac{dx}{d\theta} = a(1 - \cos \theta), \quad \frac{dy}{d\theta} = a \sin \theta$$

よって, $\frac{dy}{dx} = \frac{a \sin \theta}{a(1 - \cos \theta)}$

$$= \frac{2 \sin \frac{\theta}{2} \cos \frac{\theta}{2}}{2 \sin^2 \frac{\theta}{2}} = \cot \frac{\theta}{2}$$



$\theta = \frac{\pi}{2}$ のときは

$$x = \left(\frac{\pi}{2} - 1\right)a, \quad y = a, \quad \frac{dy}{dx} = \cot \frac{\pi}{4} = 1$$

したがって, 接線の方程式は

$$y - a = 1 \cdot \left\{x - \left(\frac{\pi}{2} - 1\right)a\right\} \quad \text{よって, } y = x + \left(2 - \frac{\pi}{2}\right)a$$

問題

10.1 つぎの関係から $\frac{dy}{dx}$ を求めよ (結果は t の関数のままでよい).

15-2 (1) $\begin{cases} x = a \cos^3 t \\ y = a \sin^3 t \end{cases} \quad (a > 0)$ (2) $\begin{cases} x = \frac{3t}{1+t^3} \\ y = \frac{3t^2}{1+t^3} \end{cases}$

(3) $\begin{cases} x = 1 - t^2 \\ y = t^3 \end{cases}$ (4) $\begin{cases} x = a(\cos t + t \sin t) \\ y = a(\sin t - t \cos t) \end{cases} \quad (a > 0)$

10.2 双曲線関数 $\sinh x = \frac{e^x - e^{-x}}{2}$, $\cosh x = \frac{e^x + e^{-x}}{2}$, $\tanh x = \frac{\sinh x}{\cosh x}$ の導関数を求めよ.

例題 5* 2重積分の変数の変換 ($x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$)

つぎの2重積分を $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ と変数を変換して求めよ.

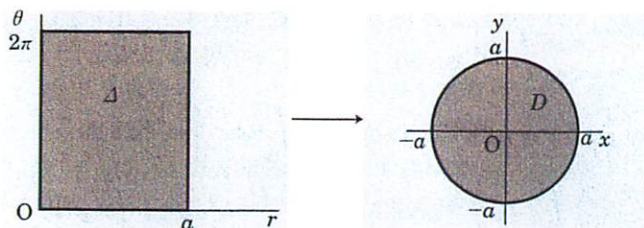
$$\iint_D (x^2 + y^2) dx dy, \quad D: x^2 + y^2 \leq a^2 \quad (a > 0)$$

解答 p.91の定理4(2重積分の変数の変換)を用いる.

極座標 $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ に変数を変換する. $r\theta$ 平面の領域 Δ を

$$\Delta = \{(r, \theta) : 0 \leq r \leq a, 0 \leq \theta \leq 2\pi\}$$

とおくと, Δ は $x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ によって D に写像される. このとき



(i) 線分 $r = 0$ は原点に写像され, 線分 $\theta = 0$ 上の点と $\theta = 2\pi$ 上の点も同じ点に写像される. それ以外では Δ の点と D の点は1対1である.

(ii) ヤコビアン $J = \begin{vmatrix} \cos \theta & -r \sin \theta \\ \sin \theta & r \cos \theta \end{vmatrix} = r$ は $r = 0$ 以外では0にならない.

例外の点では面積が0になっているので積分値には関係しないので p.91の定理4を用いることができる. よって,

$$\iint_D (x^2 + y^2) dx dy = \iint_{\Delta} r^2 \cdot r dr d\theta = \left(\int_0^{2\pi} d\theta \right) \left(\int_0^a r^3 dr \right) = \frac{\pi a^4}{2}$$

問題

5.1 つぎの2重積分の値を計算せよ ($x = r \cos \theta, y = r \sin \theta$ と変換せよ).

(1) $\iint_D x^2 dx dy, \quad D: x^2 + y^2 \leq x$

(2) $\iint_D \frac{dx dy}{(1 + x^2 + y^2)^2}, \quad D: (x^2 + y^2)^2 \leq x^2 - y^2, x \geq 0$ (連珠形)

(3) $\iint_D \tan^{-1} \frac{y}{x} dx dy, \quad D: x^2 + y^2 \leq 1, x \geq 0, y \geq 0$

* 極座標に変数を変換するとき, 対応が1対1でない点が存在する. しかし, それらの点の面積は上の(i), (ii)のように0であるので, 以後は問題にしない.

例題 6 広義の2重積分(不連続な点, 不連続な曲線のある場合)

つぎの広義の2重積分を求めよ.

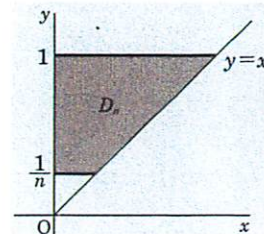
$$\iint_D \frac{dx dy}{\sqrt{x^2 + y^2}}, \quad D: 0 \leq x \leq y \leq 1$$

解答 p.91の広義の2重積分を用いる. 被積分関数は閉領域 D で正で, 原点以外では連続である. よって D の近似増加列 $\{D_n\}$ をつぎのようにとる.

$$D_n: 0 \leq x \leq y, \frac{1}{n} \leq y \leq 1$$

$$\begin{aligned} I_n &= \iint_{D_n} \frac{dx dy}{\sqrt{x^2 + y^2}} = \int_{1/n}^1 dy \int_0^y \frac{1}{\sqrt{x^2 + y^2}} dx \\ &= \int_{1/n}^1 [\log(x + \sqrt{x^2 + y^2})]_0^y dy \\ &= \int_{1/n}^1 \{\log(1 + \sqrt{2})y - \log y\} dy \\ &= \int_{1/n}^1 \log(1 + \sqrt{2}) dy = \log(1 + \sqrt{2}) [y]_{1/n}^1 = \log(1 + \sqrt{2}) \left(1 - \frac{1}{n}\right) \\ &\rightarrow \log(1 + \sqrt{2}) \quad (n \rightarrow \infty) \end{aligned}$$

$$\therefore \iint_D \frac{dx dy}{\sqrt{x^2 + y^2}} = \log(1 + \sqrt{2})$$



問題

6.1 つぎの広義の2重積分を求めよ.

(1)* $\iint_D \frac{dx dy}{(y-x)^\alpha} \quad (0 < \alpha < 1), \quad D: 0 \leq x \leq y \leq 1$

(2)** $\iint_D \frac{dx dy}{(x+y)^{3/2}}, \quad D: 0 \leq x \leq 1, 0 \leq y \leq 1$

(3)*** $\iint_D \frac{dx dy}{(x^2 + y^2)^{\alpha/2}} \quad (\alpha > 0), \quad D: x^2 + y^2 \leq 1$

* 被積分関数が直線 $y = x$ 上の点で不連続であるが, この場合も p.91の広義の2重積分と同様に考えて, 近似増加列は $D_n: 1/n \leq y \leq 1, y \geq x + 1/n$ とせよ.

** 原点で被積分関数が不連続である. 近似増加列は D から $0 \leq x \leq 1/n, 0 \leq y \leq 1/n$ を除いたものとせよ.

*** 原点で被積分関数が不連続である. 近似増加列は $D_n: 1/n^2 \leq x^2 + y^2 \leq 1$ とせよ.

15-2
改
2=1/3

第2問 **標準** (2次関数, 平行移動, 最小値)

(2016-Pair)
Maple

$x=2$
 $y=6.5$

2017年版
センター試験

過去問研究
数学I/A/IB

(教学社)
2016

$$y = ax^2 + bx + c \quad \dots\dots ①$$

$x = -1, y = 4$ を①に代入すると

$$a - b + c = 4 \quad \dots\dots ②$$

$x = 2, y = 7$ を①に代入すると

$$4a + 2b + c = 7 \quad \dots\dots ③$$

②, ③を b, c について解くことにより

$$b = -a + 1, \quad c = -2a + 5$$

このとき, ①は

$$\begin{aligned} y &= ax^2 - (a-1)x - 2a + 5 \quad \dots\dots ④ \\ &= a\left(x - \frac{a-1}{2a}\right)^2 + \frac{-9a^2 + 22a - 1}{4a} \end{aligned}$$

ゆえに, ①のグラフの頂点の座標を (p, q) とすると

$$p = \frac{a-1}{2a}, \quad q = \frac{-9a^2 + 22a - 1}{4a}$$

(1) $a = 2$ のとき, ①の頂点は $(p, q) = \left(\frac{1}{4}, \frac{7}{8}\right)$ である。ゆえに, ①のグラフを x 軸

方向に $\frac{-1}{4}$, y 軸方向に $\frac{-7}{8}$ だけ平行移動すると, $y = 2x^2$ のグラフに一致する。

(2) ①のグラフが y 軸に関して対称になるのは, 放物線の軸の x 座標 (頂点の x 座標) が 0 のときである。すなわち

$$p = \frac{a-1}{2a} = 0 \quad \therefore a = 1$$

このとき, 頂点の y 座標は

$$q = \frac{-9 \cdot 1^2 + 22 \cdot 1 - 1}{4 \cdot 1} = 3$$

(3) ①のグラフは, $a > 0$ より下に凸の放物線である。よって, その最小値は頂点の y 座標に等しい。ゆえに, 条件より

$$\frac{-9a^2 + 22a - 1}{4a} = 0 \quad 9a^2 - 22a + 1 = 0$$

$$\therefore a = \frac{11}{9} \pm \frac{4}{9} \sqrt{7} \quad (\text{いずれも } a > 0 \text{ を満たす})$$

(4) ①(つまり④)の右辺を $f(x)$ とおく。 $a>0$ より

$$\frac{a-1}{2a} = \frac{1}{2} - \frac{1}{2a} < \frac{1}{2} (<1)$$

であるから、 $1 \leq x \leq 2$ における①の最小値は $f(1)$ である。よって、条件より

$$f(1) = a - (a-1) - 2a + 5 = -2a + 6 = 0$$

$$\therefore a = \boxed{3} \quad (a>0 \text{ を満たす})$$

解説

2次関数 $f(x)$ が

$$f(x) = a(x-p)^2 + q$$

と変形できるとき、そのグラフの頂点の座標は (p, q) である。

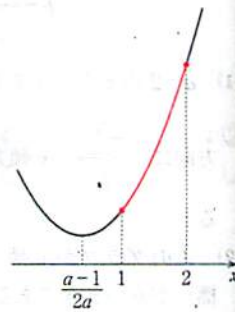
- (1) 放物線の移動は、頂点の移動に着目するとわかりやすい。
- (2) 2次関数のグラフ(放物線)はその軸に関して対称である。したがって、 y 軸を軸とする放物線は、 y 軸に関して対称である。
- (3) 2次関数のグラフが下に凸であるとき(x^2 の係数が正のとき)、その2次関数は頂点において最小値をとる。

(4) 軸の x 座標 $\frac{a-1}{2a}$ は、 $a>0$ のとき

$$\frac{a-1}{2a} < \frac{1}{2} (<1)$$

を満たす。したがって、①のグラフは右図のようになり、

$1 \leq x \leq 2$ においては $x=1$ で最小値をとる。



第3問 標準

DB=4, BE=6, ED=5た

理を適用して

$$5^2 = 4^2 + 6^2 - 2 \cdot 4$$

$$\therefore \cos \angle DBE = \frac{9}{16}$$

$0^\circ < \angle DBE < 180^\circ$ より、 \sin

$$\sin \angle DBE = \sqrt{1 - \left(\frac{9}{16}\right)^2}$$

また

$$\triangle DBE =$$

① $\triangle DBE$ の内接円の半径

DB, BE, EDに引いた

だから

$$\triangle DBE = \triangle IDB + \triangle I$$

$$= \frac{1}{2}r \cdot DB + \frac{1}{2}r$$

$$= \frac{1}{2}r(4+6+5)$$

①, ②より

$\frac{1}{2}$

円IとBEとの接点をL,

$$BL = BI$$

とすると

$$BE = x +$$

これを x, y, z について解